

<指導計画のとらえ>

(1)長期の指導計画(年間・期別・月間)

長期の指導計画は、昨年までの保育に関する積み重ねた自園のデータ(全体的な計画)を基に、入園から卒園までにどのような保育の過程をたどると保育・教育目標が達成できるか示した計画である。長期計画は卒園までの子どもの育ちに見通しを持つために重要な計画である。

事例1(p34)では、子どもの生活の区切りを中心に各年齢をⅤ期に分けて記してある。例えば、4月～6月中旬前後までを「新しい生活に慣れることを中心とした生活」、6月中旬～9月中旬までを「生活に慣れて自分を出して遊びを展開する生活」、9月上旬～11月中旬を「遊びの広がり」、11月上旬～1月下旬を「遊びの深まり」、1月中旬～3月「各学年目標の充実に向けた生活」で示してある。各区切りには、期待する子どもの育ちをキャッチフレーズで示し、これは、「環境構成・援助」の方向を捉える視点ともなる。

事例2～4「期の区分表」(p35～37)では、それぞれの年齢の生活の区切りに合わせて「ねらい・内容」を示し、さらに事例5～7「期間指導計画」(p38～43)では、昨年までのデータを基に、期ごとに「子ども姿・ねらい・内容・環境構成と援助のポイント」を示してある。

事例 8～10(p44～49)は各月ごとの指導計画を具体的に示したものである。

(2)短期の指導計画(週・日案)

週・日案では、先週までの子どもの姿を 5 領域のねらい・内容等を視点に、幼児の姿を出し、子どもの興味・関心の方向や育ちを捉え、長期の指導計画で示された子どもの姿と比較しながら、今どの段階の育ちにいるのかを把握しなければならない。そのことを通して、これまでの保育や環境構成、援助の方向等、発達に必要な環境が十分であったか評価・反省をするとともに、あらかじめ設定した「ねらい・内容」を修正したり、それに向けて環境を再構成したり、必要な援助をしたりという柔軟な実態に即した計画にすることが大切である。

事例 11～13「週・日案」(p50～55)は、週当たりの計画について日の計画を具体的に示したものである。3歳児・4歳児はⅠ期の4月第1週、5歳児はⅤ期の1月第3週を事例とした。